

農業版事業継続計画書 簡易版

策定・改定日	2021年9月28日	従業員・家族共有日 (原則策定・改定日から1ヶ月以内)	10月中	次回改定予定日 (原則1年毎に改定)	2022年9月末
--------	------------	--------------------------------	------	-----------------------	----------

想定リスク	時期:6月~10月(麦6月~、米9月~) 想定災害:台風または豪雨による浸水・停電 自宅の状況:●●川堤防より約50m程度 最大浸水:水の深さ1~2m未満(●●市水害時浸水深マップ参照) 圃場・作業場・機械置場の状況:自宅に隣接 最大浸水:水の深さ1~2m未満(●●市水害時浸水深マップ参照)
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1. 基本方針

緊急事態発生時には、以下の基本方針に則り対応する。

1	従業員および家族の命を守る
2	米を中心に生産物を予定通り出荷し、供給者としての責任を果たす
3	従業員の雇用を守る

2. 重要業務と目標復旧時間

以下の業務の復旧を最優先とし、目標復旧時間内の復旧を目指す。

重要業務	米:収穫物の乾燥
目標復旧時間	災害発生後 48時間以内

3. インフラ等の被害による重要業務への影響と対応(代替手段等)

種別	影響	対応(代替手段等)
電気	停電による乾燥施設の利用不能	①EVIに連動した給電設備を導入する ②仲間に協力を依頼する
灯油・軽油	乾燥機・トラクター等、機械設備の稼働不能	①仲間に協力を依頼する ②常に燃料満タン状態を意識する(備蓄)
水道(農業用水含む)	断水 ※栽培への支障はない	①井戸水で代替 ②飲用水の保管(自宅、休憩所等)
情報通信	関係各所、取引先への連絡不能	①携帯電話の利用 ②E-Mailの利用 ③SNSの利用
交通	道路不通による出荷不能	①開通まで保管する ②被災状況に応じて出荷先を調整(変更)する
ほ場等	農作物(米・麦)の被災	米:早期収穫の可否判断をする 麦:再播種を行う
ガス	特に問題なし	

4. 事前対策の実施状況

分類	項目			
ヒト	安否確認手段	携帯電話・グループLINE	連絡体制	社長より安否確認連絡、家族(従業員)は応答または返信
	避難場所	①原則的に自宅とする ②自宅が被害を受けた場合は●●小学校(●●市指定避難所)		
	欠員時の対応	地域の仲間に協力を依頼する(事前に相互協力体制を話し合っておく)※作業を頼む等		
	その他			
モノ	設備使用不可時の対応	地域の仲間に協力を依頼する(事前に相互協力体制を話し合っておく)※機械等を借りる、作業を頼む等		
	調達支障時の対応	①備蓄可能な資材で対応 ②必要により注文や仲間からの供給 ③②が困難の際は作業を遅らせる		
	その他	移動可能なものは高い場所に移動(避難)させておく(新設の倉庫が最も高い) 収穫実施の可否(早めに収穫するかも含めて)について気象状況等を参考に判断する ※停電等が想定されるレベルの場合は事前に収穫しない		
	手元資金	現金および預金 約●●円(令和3年9月現在)	備考	金融資産は時価評価
セーフティネット	保険加入	収入保険、火災保険(JA)、地震保険(JA)、農業共済(ハウス、機械)		
	その他		備考	保険証券は自宅保管
情報	重要情報保管場所	PC(パスワード:代表取締役保管)		
	PC等使用不可時の対応	クラウドおよびUSBメモリー(自宅保管)を利用(パスワード:代表取締役保管)		
	その他	関係機関連絡先や担当者をリスト化済み、紙にて出力 家族に情報は共有済み		
地域連携	JA、●●農林振興センターと連携、被災時の出荷対応、インフラ復旧情報について協議予定			

5. 緊急時の体制

総括責任者(代理者)	事業継続担当責任者(代理者)
代表取締役 A氏	取締役 B氏

【初動対応フェーズ】(目安:緊急事態発生~24時間以内)

○状況確認

確認対象	担当者	
役員・従業員	家族を含めた安否確認	A氏(B氏)
建物・設備	ITを含む状況	A氏(B氏)
その他事業資源	肥料・飼料・農薬等の在庫	A氏(B氏)
取引先	状況確認	A氏(B氏)
インフラ	電気・ガス・水道・交通等の状況	A氏(B氏)
その他		

○備蓄品の状況

品名	数量	その他	数量
救急箱	3セット	その他:懐中電灯	5台
飲料水	2L×2ケース(12本)	その他:携帯電話充電器	5台
食料	5人×3日分	その他:カセットコンロ	2台
ヘルメット	5個	その他:トイレトペーパー	1ケース

○出勤・帰宅ルール

状況	原則ルール
出勤時	自宅待機(従業員は避難勧告前は帰宅)
在宅時	自宅待機
その他	移動中はグループLINEに連絡(家族・従業員から社長へ)

【事業継続フェーズ】(目安:初動対応完了後~)

○重要業務継続の具体的方法

対応手順	担当者
①現状把握(災害発生~12時間以内) ・家族、従業員の安否、対応可能可否確認 ・作物、ほ場、施設、機械設備の被害確認	責任者:A氏 作業者:A氏 B氏
②作業準備(災害発生~24時間以内) ・従業員への指示 ・JA、●●農林振興センターへの連絡 ・取引先への連絡 ・協力者への連絡、依頼 ・乾燥機の稼働 (電気復旧時⇒速やかに稼働開始) (電気未復旧時⇒協力者に依頼、 *給電設備導入まで)	
③作業実施(災害発生~48時間以内) ・自宅、作業場全体の復旧作業実施	

BCP策定後の運用

日頃から緊急時における対応を家族や雇用者と話し合ったり、実際に訓練を行っておくことが重要です。そうすることで緊急時における各人の行動が明確になり、復旧までの時間を短縮できます。また、「1年に1回は見直す」「策定したら1ヶ月以内に皆で確認する」などルールを決めて、運用を心掛けることが重要です。また、重要データはUSBなどの物理的なものではなく、クラウドでのバックアップが安全です。